

豊橋技術科学大学
豊橋技術科学大学
三井情報開発

学生会員
正会員
正会員

○上田 実
青島 縮次郎
片田 敬孝

1. はじめに

過疎地域の振興には就業機会の創出が不可欠であると言われている。本研究では三河山間過疎地域を対象として、昭和58年9月に当地域に既に立地した企業に対するアンケートおよび町村へのヒアリングを行い、企業立地の進展状況、その成果と問題点等について第39回年次学術講演会で報告した。また、昭和59年9月には三河地域の都市域に立地している企業に対してアンケートを実施し、その企業特性および今後の立地動向等について昭和59年度中部支部研究表会で報告した。本報告ではそれらを統合し、従来の三河山間地域への企業立地がどのような就業の場をその地域に与えたのか、そして今後の動向はどのようなのかという視点から、とくに企業側の雇用特性に着目して分析している。なお、雇用特性を示す指標として、平均雇用人数、若青年者雇用率（若青年者とは30才未満を指す）、高令者雇用率（高令者とは50才以上を指す）、パートタイマー雇用率、女性雇用率をとりあげた。

2. 山間域立地企業分析

三河山間地域には上記調査時点において、従業員10人以上の工場が128立地しており、そのうちの89.1%が昭和40年以後に立地したものである。立地の型を在来（山間内部で興きたもの。木材木製品製造業、窯業・土石製品製造業等地場産業的色彩が強い）、誘致（行政側からの何らかの援助を受けて都市域から立地したもの。電気機械器具製造業のほか衣服その他繊維製品製造業が目立つ）、進出（行政側からの援助を受けことなく都市域から立地したもの。電気機械器具製造業のほか輸送用機械器具製造業も多い）に分けると、企業数にしてそれぞれ29.8%、43.0%、27.2%となり、また総雇用人数にするとそれぞれ18.6%、60.9%、20.5%となって、誘致型が多いのがわかる。しかし近年、この誘致型および在来型は減少傾向、進出型が増加傾向にあり、昭和55年以後だけで見ると、進出型が企業数にして38.1%、総雇用人数にして54.5%を占めるに至っている。さて、この三つの立地型別に雇用特性を

表-1 立地型別雇用特性

見たのが表-1である。それぞれの特徴を挙げると、在来型は若青年者雇用率が極端に低く高令者雇用率が高いことである。また、パートタイマー雇用率、女性雇用率が低いことから、中高令者の男性を中心に比較的安定した就業の場を与えているといえることができる。

特性 型	平均雇用人数 (人/工場)	若青年者 雇用率(%)	高令者 雇用率(%)	パートタイマー 雇用率 (%)	女性雇用率 (%)
在 来	33.7	6.6	34.2	10.8	41.9
誘 致	112.9	17.2	24.0	17.3	54.0
進 出	40.0	34.8	19.1	12.5	46.6
全 体	69.9	17.5	25.1	15.6	51.1

これに対して進出型は若青年者雇用率が高く、高令者雇用率も三者のなかでは最も低くなっていることから、比較的優良な企業であることがうかがわれる。ただし、平均雇用人数は小さい。そして誘致型は若青年者雇用率、高令者雇用率ともに前二者の中間的な特性を示している。ただし、この型は平均雇用人数が大きく、パートタイマー雇用率、女性雇用率も三者のなかでは最も高いことから、女性を中心として幅広く、かつ大きな就業の場を与えているといえることができる。

次に、山間地域をさらに分割して、それぞれの地域ごとの雇用特性を分析するが、ここでは別稿の通勤流動分析によって得られに知見にしにがって、都市隣接地域と山間内部地域に分けて考えることとする。さて、三河山間地域立地工場128のうち、都市隣接地域へはその70.3%が立地している。これを前述の在来、誘致、進出

の各型ごとに見ると、それぞれ61.9%、68.6%、82.9%が都市隣接地域への立地となっており、この地域の進出型立地の多いことがわかる。また、地域別の立地数経年変化を見ると、山間内部地域では昭和45年から49年にかけてピークとなり、その後急激に減少しているのに対し、都市隣接地域においては横ばいからやや減少するにとどまっている。そして、昭和55年以後だけで見ると、三河山間地域への21の立地数のうち81.0%が都市隣接地域への立地である。地域別の雇用特性を表-2に示す。この表より二つの地域を比較すると、都市隣接地域では若青年者の雇用が比較的進んでおり、パートタイマー雇用率、女性雇用率も相対的に低いことから、安定した男性中心型の雇用形態になっているといえることができる。これに対して山間内部地域では、高年齢者雇用率、パートタイマー雇用率、女性雇用率がいずれも高いことから、女性を中心とする高年齢者の比較的不安定な雇用形態が多いことがわかる。

表-2 立地地域別雇用特性

地域	特性	平均雇用人数 (人/工場)	若青年者 雇用率(%)	高齢者 雇用率(%)	パートタイマー 雇用率(%)	女性雇用率 (%)
都市隣接地域		73.5	19.7	22.2	12.5	46.6
山間内部地域		60.8	10.6	34.3	25.2	65.0

3. 都市域立地企業分析

三河山間地域に隣接する都市域には前述調査時点において、従業員10人以上の工場が2,770立地している。これらの特徴を挙げると、輸送用機械器具製造業が18.1%(全国では5.6%)、黒業・土石製品製造業が7.8%(全国では4.6%)と特化しており、また工場規模も従業員500人以上が3.1%(全国では1.3%)と大規模工場の占める割合が高くなっている。

さて、これらの工場へのアンケートのうち本社工場に対しては、三河山間地域への工場進出意向の有無を質問した。回答のあった企業のうち、積極的進出意向有り5.7%、条件付進出意向有り17.0%であった。これら進出意向の有無別の現時点における雇用特性を見たのが表-3である。これより積極的進出意向企業は他の企業と比べて、若青年者雇用率が低く、高年齢者雇用率が

表-3 三河山間地域への工場進出意向別雇用特性

意向	特性	平均雇用人数 (人/工場)	若青年者 雇用率(%)	高齢者 雇用率(%)	パートタイマー 雇用率(%)	女性雇用率 (%)
積極的進出		57.5	25.3	28.3	13.4	26.5
条件付進出		105.7	36.5	14.3	6.9	25.8
進出意向無し		65.1	34.4	16.1	12.7	39.4
全 体		83.4	33.7	15.2	12.1	35.5

若青年者雇用率が低く、高年齢者雇用率が高くなっており、既に山間地域に立地した企業の雇用特性に近いといえる。これに対して条件付進出意向企業はいずれの指標をとっても優良企業の雇用特性を示している。表-4は三河山間地域への進出を既に予定している企業(新設4、移転1、これは回答のあった本社工場の2.3%にあたる。進出先はすべて都市隣接地域)の現時点における雇用特性である。これを見ると、表-3における条件付進出意向企業のそれに近いことがわかる。そこで、その条件とは何かを整理したのが図-1で、道路、労働力、用地の順となっている。

表-4 三河山間地域への工場進出予定企業の雇用特性

進出	特性	平均雇用人数 (人/工場)	若青年者 雇用率(%)	高齢者 雇用率(%)	パートタイマー 雇用率(%)	女性雇用率 (%)
進出予定企業		292.5	42.8	12.6	6.5	19.8

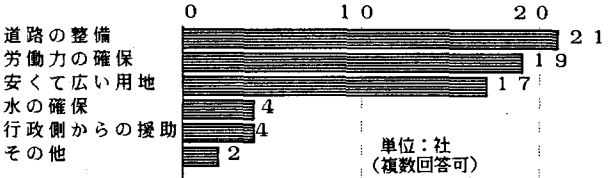


図-1 条件付山間工場進出意向企業のその条件

三河山間地域への企業立地は当初、中高年の男性の就業の場としての在来型、同じく女性の就業の場としての誘致型の立地が進んだが、それらはほぼ一巡した。これに対し都市隣接地域へは近年、若青年者の就業の場としての進出型の立地が増えており、この動向は今後も続くものと思われる。なぜなら山間進出条件のうち道路および労働力については、別稿の通勤流動分析で見たとおり、当地域はそれらを満足しつつあるからである。